

行事／取組名称	物理チャレンジ対策講座（女子チャレンジ）		
担当者	長谷川修司（JPhO）		
開催日時・期間	令和2年2月1日（土） 13時00分～16時00分	会場	栃木県立宇都宮女子高等学校
主 催	栃木県立宇都宮女子高等学校	後援	
共 催	物理オリンピック日本委員会		
協 賛			
概要			
栃木県立宇都宮女子高等学校の1年生36名を対象として、初めに物理オリンピックと物理チャレンジを紹介した後、第1チャレンジの実験レポート作成について簡単な講義を行った。その後、「発光ダイオードの点灯回路の作成と電流電圧特性の測定」の実験講習を行った。			
参加者	教員	高校生	中学生
教員 4名		高1年生36名	0

報告事項
13:00-13:45 物理チャレンジ・オリンピックの紹介と実験課題レポートの書き方の解説。 実験課題レポートでは、条件を変えて複数回実験を繰り返すこと、実験結果の不確かさも併せて見積もることの大切さを強調した。過去のレポートを例にとってコツを解説した。 10:45-12:45 発光ダイオード（LED）点灯回路の作成と電流電圧特性の測定 実験キット18台を使って、生徒2名が1台のキットを使い、実験実習を行った。ブレッドボード上に回路を組み、可変抵抗器を使ってLEDにかける電圧を調整できる回路をくみ上げた。それを使って、赤色、緑色、青色、紫色、それぞれのLEDの発光開始電圧を測定し、光の色によって発光開始電圧が違い、それが光のエネルギーの違いに対応することを学んだ。次に、回路に電流計を挿入し、LEDが発光する前後での電流電圧特性曲線を測定した。これによって電流と電圧の関係がダイオードの特性になっていること、また、電流が急激に流れ始める電圧が、前に測定した発光開始電圧に対応していることを学んだ。回路に電圧計を挿入してLEDにかかる電圧を測定する場合に比べ、回路に電流計を挿入してLEDを流れる電流を測定する回路を作るほうが格段に難しいようで、多くの生徒が電流測定に手こずっていたが、コツを少しずつ掴んだようだった。 参加生徒は、3時間近く休憩無しで実験に集中していた。ほとんどの生徒は、電流電圧測定のグラフを書くところまで実施できていた。感想を聞いてみると、光の色によって光始める電圧が違うことが分かって納得したという声があった。 今回のトレーニング研修会は、物理チャレンジ2020の実験レポートの課題が発表された後に行ったので、4月からの参加申し込みに向けて効果的な研修となったと思う。今回の参加者のなかから多くの生徒が今年の物理チャレンジに申し込むことを期待したい。

